子育て情報新聞

もも

発行／稲美町子育て支援センター
TEL ・ FAX 079－492－9090
〒675-1115 加古郡稲美町国岡 1－1
いきがい創造センター内
2016年（平成28年） 6月 No. 302

幼児期に自然が教えてくれること

「触って丸くなるのはダンゴムシ。触っても丸くならないのはワラジムシですよ」と教えて下さる自然観察員の横野先生の話を聞きながら、子どもたちは興味津々に虫の様子を眺めていました。触れない子に、「大丈夫！噛まないよ」と教えておられたお母さん。また、カエルを受け取った我が子を見て、「え～、うちの子今までよう触らんかったのに・・」と驚かれたお母さん。

これは、コロボックルの会で稲美中央公園を散策していた時のことですが、一人ひとりの興味関心の違いこそあれ、子どもたちは花や虫を見つけたり、まつぼっくりや枯れ枝を拾って遊ぶのが大好きです。

横野先生は、「**この幼児期に、しっかり自然に触れて虫を触ったり草花を見て、お子さんに興味を持たせてやってくださいね。今興味を持たせてやらないと、もう少し大きくなると関心を示さなくなりますからね**」と話されました。

『今でしょ！』のセリフでお馴染みの予備校講師林修さんも、「頭の良い子に育てるにはどうしたらよいでしょう？」と聞かれて、「自分の仕事柄言うのもなんですが、人間の脳は５歳くらいでかなりの部分成長してしまうので、実は幼児期が一番大切なんですね。中学や高校で慌てて塾通いするより、幼児期に“勉強させる”ということではなく、**しっかり遊んで、たっぷり自然に触れるという体験がとても大切なんです**」と答えていました。

体験を通して得た知識や考えが、必ず本物の学力に結びつくということなのでしょうね。

稲美町には自然に触れる場があちこちにありますので、図鑑片手に草花や虫を見つけるお散歩は、子どもたちの心をワクワクさせると思いますよ。

「子育てひろばフェスティバル」で遊ぼう！

まちの子育てひろばと、ボランティアさんたちによるアイデアたっぷりの遊びの場を設けます。お子さんのお気に入りの遊びを見つけて、心行くまでたっぷり遊んでみましょう！

申し込みはいりません。

【と　き】６月２９日(水)　１０時～１２時
【ところ】加古福祉会館　きらめきホール
【対　象】未就園の子どもと保護者
【持ち物】上履き・靴を入れる袋

木のおもちゃ・電車ごっこ
魚つり・新聞プール・的当て
幼児服のリサイクル
絵本、昔のおもちゃ、水辺の生きものタッチングプール
親子写真・ポン菓子等のコーナーがあります。

～ゲストコーナー～

『世代間交流を楽しみましょう』

稲美町保健師　藤原美輪

今年の「母の日」は、母方の叔母に会ってきました。数え年 91 歳で亡くなった祖母の話題になり、私の母や叔母が子ども時代に育ったまちの様子や当時の祖母の子育てについて叔母が語ってくれました。

祖父が病気を患って帰還兵となり、当時祖母は病院に勤務しながら３人の子育てをしていました。経済的には決して余裕があったわけではない中、自分の着物を解いて子どもたちの浴衣を縫い、子ども服もほとんど祖母の手作り。野草や小さな畑でとれた野菜を調理し、食卓に出していたそうです。「今思えば、ふしぎやね。お金はなかったけど、私(叔母)も姉ちゃん(母)も、貧しいとか辛いって思ったことなかった。おばあちゃんのおかげやね。」

ある日、小学３年生くらいだった私の母が、学校に行きたくないと言ったことがあったそうです。特別な理由があったわけでもなかったからか、祖母は小学校の校門に母をくくりつけたため、母は大泣き。

祖母の厳しすぎるこの行為は、今も昔も許されないと思いますが、それ以来母は卒業まで無遅刻無欠席だったそうです。これまで怒った祖母を知らない私には、子育て真っ最中の祖母の意外なエピソードでした。幼少期の私や従妹には、学校の楽しさを教えてくれていましたので。

“学校は行くもの”という祖母の教えは、知らず知らず孫やひ孫まで受け継がれています。

野山と畑が好きだった祖母は、野草の佃煮をよく作っていました。つくしやぜんまいを懐かしく味わえるのは、祖母のおかげです。ヤマモモやグミやヘビイチゴも祖母が教えてくれました。野山の楽しみ方を教えてくれる祖母が私は大好きでした。

毎朝、新聞を読み、晴れた日は必ずお布団を干し、ミシンをかけては洋服や手提げバック等を作っていました。私が小さい頃遊んでいた着せ替え人形も祖母のお手製でした。生涯を慎ましく暮らした人でした。

世代間交流をイベントや行事として仕掛けないと、なかなか祖父母世代とふれあう機会がない子どもたちが増えています。親同士の横のつながりだけでなく、祖父母との縦のつながりも大切だと感じます。縦糸と横糸が織り重なって、子どもたちはふんわり包み込まれるようなあたたかさを感じるように思います。世代間の違いや摩擦を感じるときは、異文化交流のような感覚で、新鮮に受け止め、お母さん世代も三世代・四世代間交流を楽しみませんか？世代の異なる大人から得るものは、次世代の子どもたちへのかけがえのない贈り物になると思いますよ。

エリザベスママの
「こうして強くなる！！」

前日の（コロボックルの会）開級式で全く会場にも入れず、かなり不安を感じての本日の参加でしたが、同一人物とは思えない行動をしてくれてびっくりしました。皆と一緒に歌を歌ったり、座ったまま絵本を聞けたりできるとは夢にも？！思いませんでした。

家に帰ってから、「ボックル(?)楽しかった」と言ってくれ、チューリップの歌を歌いながら、自分の車のオモチャを並べている姿を見て、参加させて頂いて本当に良かったと思います。「次も行くで～」と楽しみにしているようです。

皆さんが同じ親の立場で来られているので、子ども同士で遊ばせていられる場にすごくホッとしています。　　Aママ

コロボックル日記より
わが子の成長を実感する時

2、3 ヶ月前まで息子(3歳)は、弟(1歳)とおもちゃの取り合いの時に突き飛ばしたり、かみついたりと手を焼いていました。

でも、最近は少し変化が見られるようになりました。弟に対してのひどい行動が減ったように感じています。それに兄が弟に「Yちゃん、大好き」って抱きついたり、2人でゲラゲラ笑いながら楽しそうに追いかけっこをすることが増えてきました。弟が病院の為、実家の母に兄を預けて出かけた時のことですが、帰宅した途端、「嬉しい」って弟に抱きついていました。弟がいなくて寂しかったんだな、やっぱり弟のことが大好きなんだな・・ということが伝わってきて、親としてはすごく嬉しい気持ちになりました。　　Tママ

子育てインフォメーション

《問合先》 子育て支援センター ☎492－9090

≪出会いの広場≫

下記の時間帯に子育てルームを開放しています！

親子共々、ステキな出会いの場にしてくださいね。おじいちゃん、おばあちゃんもお孫さんと一緒に気軽にお越しください。

６月の開放日

【午前（９時～１２時）】

１(水)・８(水)・１３(月)・１５(水)・２２(水)・２７(月)

【午後（１時～４時３０分）】

月曜日～金曜日

【ところ】いきがい創造センター　子育てルーム

【対　象】未就学の子どもとその保護者

図書館おはなし会のお知らせ

☆えほん会

日時：６月１１日（土）１１時００分～

☆スプーンおばさんのおはなし会

日時：６月１８日（土）１４時３０分～

☆よちよちえほん会

日時：６月２１日（火）１１時００分～

場所は、図書館１階のおはなし室で開催

文化の森にある図書館では、上記のように図書館司書さんや読み聞かせボランティアの皆さんが、楽しいお話を聞かせてくださる機会がたくさんあります。

親子でお出かけくださいね。

【問合先】

稲美町立図書館　☎492－7800

≪ツインズ(多胎児ママの会)≫

多胎児を育児中の親の会です。

多胎児ならではの喜びや悩み、育児上の工夫を和気あいあいと語り合っています。

【と　き】６月６日(月)10 時～11 時 30 分

【ところ】いきがい創造センター　子育てルーム

【対　象】多胎児の保護者（子ども同伴可）

多胎児を妊娠中の人

≪ヨチヨチの会(1歳児)≫

今回は、歯科衛生士さんを招いて、幼児期の口腔ケアについてのお話があります。虫歯と食事との関係や歯磨きを習慣化するためのポイントを学びましょう。他にも保健師、栄養士が育児相談に応じます。

【と　き】６月９日(木)10 時～11 時 30 分

【ところ】いきがい創造センター　多目的ホール

【対　象】１歳児とその保護者

幼児の歯磨き中の事故が多いようです。事故の要因は、歯ブラシをくわえたまま転んで、口の中を怪我することが最も多く、1～2 歳児が全体の 8 割を占めているようです。お子さんに歯ブラシを持たせる時は気をつけたいですね。

稲美町のホームページからも、この子育て情報紙「もも」をご覧いただけます。

また、月初めに支援センターのスタッフが子育てに関する思いを綴った「育児日誌」も掲載していますので、あわせてご覧ください。